

2024年9月17日(火)

老球の細道 829

### 「オラ！ スペインへ 最終章」⑬

・・・ユーロバスケットボールツアー紀行〈Ⅲ〉・・・

会津バスケットボール協会 室井 富仁

ギリシャ神話の中に登場するヘラクレスは怪力無双の英雄である。全能の神ゼウスの不義の子として生まれたためにゼウスの妻ヘラに憎まれる。ヘラクレスが大人になり家庭を持ったとき、母親のヘラの陰謀によりヘラクレスは自分の子どもと妻を焼き殺す。

ヘラクレスは自分の行為に絶望し、罪を償うためにアポローンの神から「12の難業を果たせ」という指示を受ける。「不死身の獅子を退治する」、「聖なる鹿を生け捕りにする」、「黄金のリンゴを盗む」、「水蛇を退治する」など・・・。

ヘラクレスは12年間かけて見事に12の難業をクリアして罪を償うことができた。このギリシャ神話の故事から、困難なことを選択しそれを成し遂げることを「ヘラクレスの選択（ハーキュリー・チョイス）」と言われる。欧米では人間形成の箴言警句である。

葵高校のコーチを辞任してから退職するまでに三つのヘラクレスの選択を自分に課してきた。「小、中学生のアスリート講習会」、「プレーヤーとして公式戦に参加し、シュートを決める」、そして今回の「スペインコーチ研修」。ヘラクレスから比べるとヘラヘラしたことであるが、腰痛、高血圧の洗礼を受けながらもなんとかやりきることができた。

【2014年 2月11日(火)】

マラガからパリで乗り換え成田までは約11時間のフライト。行きも帰りも運動できるようにと通路側の席をお願いしたので外の景色は一切見ることができなかった。せめてパリの町並みを見ながらエッフェル塔に出会えればなんて思っていたが夢かなわず。

機内ではエコノミークラス症候群と腰痛との予防策として、1時間に1回くらい座席を立て歩いて、トイレに行ったり、ストレッチをしたりした。また目の疲れなどから血圧が再度上昇することを案じて、読書することを極力制限した。いつもだと11時間も乗っている時間があれば気の利いた文庫本1冊は読めるのに、今回は我慢して、ひたすら居眠りとビデオ映画で時間をつぶしていた。

機内での楽しみの一つに機内食がある。スペインでカップヌードルを探し回って食べていた先輩は、機内食は味気なくて美味くないというが、私はそうは思わない。機内食こそ、航空会社とその国の食文化の粋を結集したものではないのかと評価している。飲食にいくつかの選択肢がある。それを英語で答えるだけでも血圧が反応してしまう。肉を選ぶときなど「Pork or Chicken?」と質問され、「オー、イエー！チキン！」と答える。関係ない言葉をくっつけ、アクセントはオレ流。我ながら情けない英会話である。

予定通り成田に着いたのだが下界は真っ白な雪景色。この日関東地方や太平洋沿岸地区では記録的な大雪になったようである。雪のために着陸が30分以上延びたが無事着陸。

今回のフライトは大きな揺れが一度もなかった。今までの外国旅行では必ず何回かあった。その度に手帳を出して家族宛に遺書を書いたものである。「保険金、財産（無いに等しいが）は家族皆で山分けせよ。葬式は出さな。鬼嫁よ！俺よりいい男がいたら再婚OK」。

世界一大きなジャンボ機は信じられないくらい揺れがなかったが、私の心はいまだに揺れている。退職後どうしよう。「洗濯」も「ヘラクレスの選択」にいれようか。 〈完〉